

各山域毎の現状と問題点 利尻山

聞き取り先：環境省利尻礼文サロベツ国立公園自然保護官事務所
宗谷支庁環境生活課自然環境係
利尻富士町商工観光課
利尻町商工観光課
利尻島自然情報センター
山のトイレを考える会会員

【Q】登山口および山中のトイレ設置・管理状況

【A】登山口：利尻富士町利尻北麓野営場（利尻富士町設置・管理、簡易水洗）
利尻町見返台園地（宗谷支庁設置浄化槽管理・利尻町清掃、カキ殻使用水洗）
山 中：平成 13 年度携帯トイレブース（両コース避難小屋）
利尻礼文サロベツ国立公園連絡協議会が購入、管理は両町。
清掃とシーズン後の撤収。

【Q】登山口および山中での紙・し尿の散乱状況

【A】避難小屋周辺でのティッシュ・屎尿の散乱。沓形コースは少ない。
登山口では、し尿やペーパーの散乱は認められない。
登山道上で一回の山行で 2～3 件。（2001 年のシーズン）
登山道上に大便があった（沓形）。
携帯トイレの投げ捨てもみられる。
山菜取りや登山者のものと思われる空き缶・ペットボトルもあった（沓形）。
避難小屋の周辺にティッシュ、携帯トイレの放置が目立つ（鷺泊）。
携帯トイレの普及、トイレブースの設置により、紙・し尿の散乱は少なくなったのでは。

【Q】その他登山利用による影響で問題視していること

【A】登山道の浸食と拡大（特に両コース分岐から山頂までの間、沓形・親不知子不知～合流点、山頂部）。草地の裸地化。
稜線上の登山道脇で、斜面全体が崩落する箇所が増加した。
登山者が転倒等により怪我をする事故も近年増加している。
登山道以外へのはみ出しによる植物の踏みつけ
歩道やトイレに関する整備への予算不足

【Q】現在実施しているトイレ問題の対策の内容と課題

【A】携帯トイレ・水溶性ティッシュの無料配布・回収（利尻富士町・利尻町）
携帯トイレ使用啓発看板、携帯トイレブースの設置（国立公園連絡協議会）
啓蒙用ちらしの作成・アンケート調査（宗谷支庁）
スライド上映会などで、山のトイレについての問題を啓蒙すると共に、携帯トイレの普及に
についても話し（パークボランティア）。
登山者のモラルによるものなので、どこまで意識を変えられるか。

【Q】携帯トイレの配布について

【A】H13 利尻富士町約 8,000 個、利尻町約 350 組（2 個 1 組）配布
鷺泊下山口では「使用済」と「未使用」にわけて、回収ボックスを設置しているが、
未使用のものが返却されることは少ないようだ。
沓形コースは登山口が無人のため、役場と宿泊施設で配布。登山口におけないだろうか。
携帯トイレの使用方法、配布場所、使用する理由など、登山者への情報提供と、
登山者側の意識改革が必要。
トイレブースについて
・ 鷺泊では登山者が多く、ブース内が汚れ、チャックも破損（修理した）。ゴミも捨てら
れていた。
・ 沓形では、ブースでそのまま用を足したものがおり使用不能になった時期があった。ブ

- ・ ース内に、利用マナーのプレートと、携帯トイレの使用法を掲示した。
- ・ 設置場所が登山道横ということ、また素材がテント式であることから薄いということもあり、女性の使用に抵抗を感じる方が多い。
- ・ テント式で耐久性に問題。悪天候時の破損が心配。
- ・ スペースが限られており、複数設置出来ない。
- ・ 携帯トイレの放置があった

【Q】今後目指したい対策の方向性

【A】携帯トイレの無料配布継続。無料で配布し続けられるかどうか予算も厳しい。

将来的には有料化も。登山者自らが経費を分かち合うシステム。

登山前のトイレ使用、トイレブースの使用の啓蒙強化。

キャンプ場・宿泊施設での積極的な啓蒙と、携帯トイレの利用推進を普及する対策。

登山利用の総合的問題としてとらえた対策。

関係機関で方向性や様々な対策の議論、問題への認識の共有。

市民も参加した問題の協議、管理への参画。

【Q】* 検討中の対策の内容

【A】ツアー等での登山客も多くなっているので、マナー、システムをエージェントにも理解してもらい、指導を徹底していただく。

離島航路のフェリー上で行っている盗掘防止などのアナウンスなどのように、航空会社とフェリーに協力を呼びかけ、入島前にトイレや登山のマナーなどを同様に周知する方法。

トイレブースの耐久性や利用しやすい素材のものを選定するための情報収集。

山中へのバイオトイレの設置も含めた検討も行いたい（動力の確保、設置費用が課題）。

関係機関による方向性や方法論の協議。

【Q】不足していると感じている情報

【A】携帯トイレ自体をよく知らない登山者も多く、もっと啓蒙活動が必要かもしれない。

登山者の動向（フリー客、ツアー客、専門家、年齢層、性別、人数）

携帯トイレ配布実績（配布数、在庫数、日別回収数など）

ゴミやし尿、ティッシュの散乱度合い

全国的な登山者が、自らの登山による影響をどの程度把握しているのか。

山岳団体等では、どのような意識でいるのか。

【Q】考える会への要望

【A】今後、官民協力・連携のもとトイレ問題を社会全体の問題ととらえる雰囲気づくりが必要。

登山者全体で考えていかなければならないと思いますので、各種自然保護団体等と協力して各種集会やイベントを企画してもらえれば。

行政への情報やアドバイス、対策などの情報をニュースレターで定期的に。